

## ガバナー四方山話

### 第8回 観光地の思い出

スペインは観光でも有名です。宗教行事ではありますが、サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼の道は多くの外国からの巡礼者が歩きます。このサンティアゴ・デ・コンポステーラはローマとエルサレムと並んでキリスト教の三大巡礼地となっていますが、スタートはフランス中部にある教会です。ここから、国境のピネレー山脈を越えて延々とスペイン国内を横断して歩くだけでも大変な労力です。

自分はついにこの巡礼には参加することはありませんでしたが、マドリッド近郊にあるセゴビアという小さな町はナバセラダという峠を越えて行くのですが、車で2時間くらいで、こじんまりした街でディズニーランドにあるお城のモデルとされるお城があったり、ローマの水道橋があったりして、とても風情のあるところで何度も訪れました。

この町の名物が子豚の丸焼きで、レストランに行き注文すると、4人に一匹の子豚がそのままローストされて出されるのですが、半身の半分が一人前で、最期に頭が残り、ウェイターがその残った頭を、4人の中で一番食いしん坊のところに置いていきます。なぜか、自分は何度も頭も頂いた記憶があります。フィリピンや他の東南アジアでも子豚の丸焼きを出しますが、大きさが大きくて何十人という大勢用ですので、風情がかなり違います。

ナバセラダという峠は標高2,000mあって冬はスキーも出来るのですが、峠の道路沿いにアサドールという石窯でお肉をローストして食べさせるお店があり、子山羊や子羊を頂くことが出来ます。夏のお天気の良い日には、素晴らしい眺望を楽しみながらとてもリッチな気分で食事をする事が出来ます。

マドリッドから南に1時間半くらい車で走るとトレドという町がありますが、スペインの歴史には何度も出てくるところで、町全体が世界遺産となっています。この街にはパラドールという国民宿舎と言わなければならない宿泊所があるのですが、近年建てられた綺麗な建物です。でも、このパラドールという施設はもともと史跡の建物を改修した国営の宿泊施設で、私が居た頃は全国に30くらいしかありませんでしたが、今では90ヶ所にも増えていて、高級宿泊所となっているとのことでした。

昔のお城や領主の館などを改修したものが多く、私が泊まった中では、グラナダのアルハンブラ宮殿の敷地内にある昔の修道院を改修したものは、昔のそのままの風情があるパラドールで、実にスペインらしくて味わい深いところでした。その他、スペインの各地にあるパラドールの10ヶ所くらい泊まりましたが、どれもがその地の歴史を感じさせる素敵なお店でした。

また、スペインのパラドールと同様な形態で、ポルトガルにはポウサダというやはり国営の宿泊所があり、これもお城や領主の館などを改修したのですが、スペインのそれより素朴なお店が多いような気がします。機会があったら泊まってみることを是非お勧めします。ポルトガルではイワシの塩焼きが美味しく、ビノベルデと呼ばれる冷えた白ワインによく合います。リスボン市内にある公園には屋台の焼き台でイワシを焼いて食べさせるところがあり、地元に住む日本人は醤油持参で通っていると伺いました。